

開催 バルシュー、流浸、シーケーが初コラボ

配管技術セミナー準備委員会（IDE研究所、シンワ工業、流浸工業、シーケー金属）は16日、ベルサール神保町で「鋼管フェスティバル2019・配管技術セミナー」を開催した。定員の160人をはるかに上回る、約200人が参加した。参加者は中央省庁、自治体、特殊法人、設計事務所、ゼネコンやサブコン、配管工事業者や流通業者など多岐にわたる。メーカー3社のコラボレーションによる初めての配管技術セミナーとなる。

冒頭、大久保秀俊流浸工業社長（写真）が挨拶を行い、2部構成からなるセミナー概要を紹介、各種トラブル事例紹介とその対策、配管技術の最新動向などを取り上げる、非常に有意義な内容となっていることを強調し「是非今後の参考にして頂きたい」と話した。第1部は特別講演で、西原衛生工業所の壺阪由朗技術部技術管理グループリーダーが講師を務めた。テーマは衛生設備のトラブル事例と対策。壺阪グループリーダーは給水設備、給湯設備、排水通気設備、消化設備などにおける15項目からなるトラブル事例を紹介、その予防やトラブル発生時の複数対策について解説を行った。

第2部は各種鋼管の使用区分と管種選定動向、最近のトピックスなどについて、井出浩司IDE研究所代表が詳細にわかり説明を行った。メーカー3社からは省力化、軽量化、自動化などをテーマに自社製品を取り上げながら、施工事例の紹介を行った。シンワ工業は施工の省力化を目的としたプレハブ加工管継手について、流浸工業は防食加工による鋼管耐久性の向上と軽量化の実現を、シーケー金属はパイプ・継手の亜鉛除去や、開先加工の自動化などについて紹介した。

